

# 令和 8 年度事業計画書

協会は、道路の果たす多様な役割を通じて、安全で活力ある社会のために、道路政策の展望や直面する広範囲な課題等道路に関するさまざまな研究成果を提供し、もって公共の福祉の増進に寄与する各種事業活動を展開する。このため、事業活動にあたっては、公益社団法人として公益性が求められる公益目的事業を主たる事業として実施しながら、事業の健全性・継続性を十分考慮しつつ、健全な協会運営を維持していくものとする。

令和 8 年度は、今後とも健全な運営を確保するため、引き続き事業毎の継続的な収支改善の見直しを行うとともに、中長期的な課題について各委員会等で検討していくものとする。

## 1. 調査・研究事業

産学官連携による道路に関する施策・技術等の提言及び実務に活用できる指針類の作成を基本とし、ニーズの把握による適時性と新分野への取組を積極的に行う。

委員会名	審議内容	発刊予定
<b>交通工学委員会</b> 道路構造規格小委員会  交通安全小委員会	下記図書の作成・審議等 1) 「道路構造令の解説と運用」次期改訂に向けた検討 2) 路面施設の活用状況をふまえた今後の対応方針整理 1) 「道路照明施設設置基準・同解説」フォローアップ 2) 「防護柵の設置基準・同解説 / ボラードの設置便覧」次期改訂に向けた検討 3) 「道路標識設置基準・同解説」次期改訂に向けた検討 4) 「道路標識構造便覧」次期改訂に向けた検討	
<b>橋梁委員会</b> 性能評価・診断小委員会 品質保証小委員会	下記図書の作成・審議等 1) 「道路橋示方書の運用にあたっての設計の手引き（仮称）」（新刊） 2) 「道路橋耐久性能設計便覧」（新刊） 3) 「道路橋耐風設計便覧」（改訂） 4) 「道路橋耐震設計便覧」（新刊） 5) 「道路橋補修・補強事例集」（新刊）原案作成 6) 「道路橋補修補強便覧」（新刊）原案作成 7) 「道路橋床版防水便覧」（改訂）原案作成	R8. 6 R8. 8 R8. 8 R8.10

委員会名	審 議 内 容	発刊予定
<b>舗装委員会</b> 総括小委員会 舗装マネジメント小委員会 環境・再生利用小委員会 舗装性能評価小委員会	下記図書の作成・審議等 「舗装の構造に関する技術基準・同解説」(改訂) 舗装のライフサイクルコスト算定方法の検討 「舗装再生便覧」次期改訂に向けた検討 指針・便覧類の改訂に向けた課題整理	R8.11
舗装設計施工小委員会	1) 「アスファルト混合所便覧」(改訂) 2) 現行の指針、便覧に代わる技術図書体系の検討	R8.12
<b>道路土工委員会</b> 共通小委員会 盛土工小委員会 擁壁工小委員会 カルバート工小委員会 切土工・斜面安定工小委員会 性能規定化 WG 維持管理 WG	下記図書の作成・審議等 1) 「道路土工－共通指針(仮称)」(改訂) 2) 「道路土工－盛土工指針」改訂原案作成 4) 「道路土工－擁壁工指針」改訂原案作成 5) 「道路土工－カルバート工指針」改訂素案作成 6) 「道路土工－切土工・斜面安定工指針」改訂素案作成 7) 道路土工構造物の性能規定化に向けた課題整理 8) 「維持管理に関する参考資料(仮称)」(新刊)	R9. 3
<b>トンネル委員会</b> トンネル維持管理小委員会 トンネル付属施設小委員会 トンネル設計・施工小委員会	下記図書の作成・審議等 「道路トンネル維持管理便覧(本体工編)」改訂案の検討 「道路トンネル技術基準(換気編)」改訂素案作成 「道路トンネル技術基準(構造編)・同解説」(改訂)	R9. 3
<b>道路震災対策委員会</b>	下記図書の作成・審議等 「道路震災対策便覧(震前対策編)」(改訂)	R8. 5
<b>道路維持修繕委員会</b>	下記図書の作成・審議等 1) HP 公表中の事例集更新 2) 「道路の維持管理」改訂の方向性および課題の整理 3) 「電線共同溝点検の手引き」発出を受けて、不具合事例の収集・分析	

## 2. 成果の提供・普及事業

### 1) 紙 図 書

道路技術者の一層の利便に資するため、調査委員会の成果を踏まえ、適宜、適切な刊行の実施に努めるものとし、今年度は以下の図書を発刊する。

#### (1) 改 訂 (9点)

「道路震災対策便覧（震前対策編）」

「道路橋示方書の運用にあたっての設計の手引き（仮称）」

「道路橋耐久性能設計便覧」

「道路橋耐風設計便覧」

「道路橋耐震設計便覧」

「舗装の構造に関する技術基準・同解説」

「アスファルト混合所便覧」

「道路土工－共通指針（仮称）」

「道路トンネル技術基準（構造編）・同解説」

#### (2) 既刊図書の増刷

読者のニーズに合わせ増刷する。

### 2) 電子図書

改訂9点の発刊を行うとともに既刊図書も含めた必要なバージョンアップを実施する。

### 3) 機関誌「道路」の発行

機関誌「道路」については、安全な社会基盤の強化や会員相互の技術向上を目的に、技術情報や地域情報の充実、また国際情報の充実を図りながら、令和8年4月号から令和9年3月号まで各月平均7,800部を発行する。

### 4) 講習会、講演会等の開催

調査委員会において成案を得たもの、または、現在検討中の指針、要綱、便覧についての専門的な知識の普及を図るため、講習会を適時に開催するとともに道路政策の最新の動向や目指すべき方向等を紹介する「政策編」と道路の技術基準を解説する「技術編」から成る道路セミナーを

適時に開催する。

また、道路施策に関する説明会を適時に開催する。

そのほか、会員の要望を踏まえたテーマに沿った講演会等を開催する。

開催に当たっては広報による周知の徹底を図り、参加者の拡大に努める。

- (1) 「出版図書に関する講習会」(現地・WEB 開催)
- (2) 「道路セミナー(政策編・技術編)」(WEB 開催)
- (3) 「道路施策に関する説明会」(WEB 開催)

## 5) 第 37 回日本道路会議の準備

令和 9 年度の開催にむけて諸準備を行う。

## 6) 道路広報

- (1) 道路への理解とその普及のため、次の道路広報啓発活動

道路整備に対する国民のニーズを把握するとともに、社会資本として道路の役割、必要性等について広く国民的理解を求める広報啓発活動を、関係団体等の協力と連携を図りながら広く展開する。

- (2) 道路関係資料等の保存・活用システムを構築

道路関係資料等の保存・活用システムの構築に向け、今後必要なデータを適宜利用できる環境整備を行う。

- (3) ホームページの改善

最新の技術資料・情報提供を行うため、ホームページの改善を前年度に引き続き行う。

## 3. 国際協力事業

道路関連産業や道路技術の海外展開を支援する道路協会の機能強化および、協会会員への国際活動成果の還元を運営方針として、以下の事業を実施する。

### 1) PIARC (World Road Association : 世界道路協会) 関連事業

- (1) 実行委員会・総会等

令和 8 年 10 月 21 - 23 日の間にメキシコ、メリダ市で開催される総会に PIARC 分科会長の吉岡幹夫氏ほか関係者が出席し、各国の関係者らと情報交換、意見交換を図る。

- (2) 第 28 回世界道路会議(バンクーバー世界大会)への参加

令和 9 年 10 月 4 - 8 日の間にカナダ、バンクーバー市で開催されるバンクーバー世界大会に向けて、大会準備委員会を設置し、準備調整等を行うとともに、日本の参加を促す。

(3) 技術委員会

世界各国で開催される技術委員会等に日本の委員を派遣し、最新の道路技術・政策に関する情報交換、共同研究の推進を図る。

(4) PIARC 活動報告会の実施

PIARC 活動の国内への成果還元等を目的に、主として PIARC 技術委員会の活動計画・活動状況につき国内関係者へ共有し、PIARC 活動全般について報告を行う。

(5) 技術委員会活動報告の機関誌「道路」掲載

日本の委員が参加している技術委員会の活動報告を、当協会機関誌「道路」へ継続的に掲載することにより、国内における PIARC 活動成果の共有、委員会活動の活性化を図る。

(6) 各種レポート等の国内案内

PIARC が発行する各種報告書につき、当協会ウェブサイト掲載などを通じて、日本道路協会会員ほか国内関係者へ案内を行う。

(7) PIARC 本部事務局への技術者派遣

本部事務局の要請に基づき、テクニカルアドバイザー（東日本高速道路株式会社所属）1名の派遣を引き続き行う。

**2) IRF (International Road Federation : 国際道路連盟) 関連事業**

(1) 理事会・総会等

令和 8 年度に開催される理事会および総会等に、当協会を代表して IRF 分科会長の山中義之氏が出席し、道路に関する情報交換等を行う。

(2) IRF グローバルロード会議

令和 8 年 11 月 3 - 6 日の間に米国、サンフランシスコ市で開催予定の第 9 回 IRF グローバルロード会議について、国内関係者へ案内を行い日本からの参加を検討する。

(3) IRF 奨学生帰国報告会の開催

IRF 奨学生の帰国報告会を開催し、IRF 奨学生制度の意義や IRF 活動について情報交換、意見交換を行い、国内において本奨学生制度への理解の促進を図る。

(4) IRF 奨学基金への協力および令和 8 年度 IRF 奨学生の推薦

関係団体・企業の賛助を得て IRF 奨学基金に協力するとともに、令和 8 年度 IRF 奨学生の推薦を行う。

(5) 令和 9 年度 IRF 奨学生

令和 9 年度 IRF 奨学生を募集し、選考を実施する。

**3) REAAA (Road Engineering Association of Asia and Australasia :**

**アジア・オーストラレーシア道路技術協会) 関連事業**

(1) 評議員会等

令和 8 年 4 月 22 - 23 日に台湾、台北市にて開催される第 126 回評議委員会等、および同

年秋にインドネシアにて開催予定の第127回評議委員会等に協会を代表してREAAA分科会長の土井弘次氏ほか関係者が出席し、道路に関する情報交換および意見交換等を行う。

(2) 技術委員会

技術委員会として設置されている舗装小委員会の活動への日本からの参加し、調査・分析等を実施する。

(3) 若手技術者の活動促進

REAAAに登録している日本の若手技術者の活動促進を図る。

**4) 国際ウェビナーの実施**

(1) 道路分野における国際的な取り組みや事例を紹介するためのウェビナーを実施する。

**5) 国際活動報告の機関誌「道路」掲載**

(1) 道路分野における国際的な取り組みや事例を紹介するため、当協会機関誌「道路」に報告を掲載する。

**6) 海外留学生研究援助**

(1) 海外留学等を行う道路関係実務経験者に研究援助金を給付する。

**7) その他（道路関係国際会議等への協力）**

(1) 国内外で開催される道路関係の国際会議等へ協力し、国際交流の推進を図る。

**8) 国際アスファルト舗装学会活動等**

(1) 海外の舗装関係協会との一層の協力を図り、各国の最新動向や新たな知見を収集し国内舗装関係者に共有すると共に、日本の技術力とSURF2026の開催のPRにも努める。

**9) SURF2026の日本開催**

(1) 令和8年11月9－11日の間に東京で開催予定の路面性状に関する国際シンポジウム（SURF）について、当協会に設置した実行委員会を主催とし、PIARC他、日本の関連団体との共催により実施する。

## **4. 表彰等その他事業**

**1) 道路功労者の表彰**

道路整備事業の推進、道路愛護等に功績のあった団体及び個人を「道の日」に表彰する。

## 2) 会長奨励賞の表彰

定時総会に合わせ、令和7年度の本奨励賞を表彰するとともに、前年度に引き続き、道路技術の進展に寄与することを目的とし、自らの創意工夫を加え、その後の業務遂行に多大な成果をあげた者の選定を実施する。

## 3) 公益事業協力

地方の道路技術者の質的向上に資するため、適宜、地方において講演会、現場見学会等を開催する。

また、「全国交通安全運動」その他道路及び交通の発達を推進する事業等本協会の目的に適合する各種公益的事業に協力する。

## 5. 組織の強化

本協会の基盤を強化するため、ブロック担当参与による会員のニーズを踏まえた地域活動やホームページによる最新情報の提供等を行う。

また、令和8年4月から会員マイページを開設し、会員とのコミュニケーション、会員サービスの向上を図る。

## 6. その他

来年創立80年を迎えることから、70年から10年のあゆみを整理し、それを雑誌「道路」の紙面等を活用しながら、会員等にご案内していく。